

は徒歩連絡にて僅かに行はれて居る。

(6) 崩壊に伴ふ地鳴は長殿の人々には聞へなかつた。(此部落が最も近い所である。)

(7) 堰堤に對する地方民は良い筏の留場が出来た、此れを自然の儘放任して置けば舊の河床迄流失するに二十ヶ年は掛るから良い事が出来たと

云ふ考へを持つて居る。

大體以上の通りであつて世間が騒ぐ程地方民は驚いて居ない様子である。然し交通の杜絶には困つて居る模様である。

(昭和八年三月二十一日記)

## 東京府羽田鈴木町の井戸ガス

### 噴出に關する調査報告

#### 中央氣象臺羽田出張所

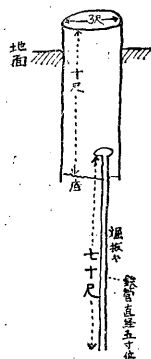
一、井戸變調當時の狀況 昭和八年七月六日午前十一時頃の地震ありたる日の夕刻午後七時頃より羽田鈴木町石井林藏氏宅井戸より黒色を呈したる水盛んに涌出すると共に瓦斯の吹出しあり、「ポカン〜」と音を發し井戸より三間位の地域に對して地響をなし、約十三回乃至十六回此の「ポカン〜」なる瓦斯吹出しの現象を續け後約十數分間全く止み、再び右の現象を繰返すと共に水の涌出盛んにして井戸より溢出したる狀況にて約三時間位にて此の現象は中止せり。翌七日の午後より再び斯

様の現象を繰返し約一晝夜續き後全く水の涌出止まる。現在に於ても水は出でず、水色は多少「にごる」も主として沃度、鐵分、鹽分を含めり。

二、石井氏宅井戸の性質及變調以前の狀況 井戸は掘抜きにて圖の如し、同井戸は掘抜約地面より八十尺なり、五、六十年前に掘られたる由なり、今迄に度々瓦斯發生し「ブク〜」位の程度にして、火を付ければ燃えたる由にして、且て「井戸さらへ」せるとき人夫の煙草より燃えたる瓦斯により火傷せる事等

ありたる由なり。尙關東大震災の當時の前後に於ける此井戸の

状況は別に變化なき由なり。



三、其他羽田方面の井戸に關する調べ 羽田穴

守町新川愛法氏方の井戸深さ二百四十一尺のものは現在何ら異常なきも日照續きたる時等急に水が盛んに吹出し、後出が悪くなる等の事ありたる由なり。此の井戸は大震災以後に掘りたるものにして、初め百十尺位掘りたる時は瓦斯盛んに發生し使用し得ざりしが爲め、其後現在の二百尺以下に掘り下げたる處瓦斯の發生もなく、其後左程の變化なき由なり。尙同町要館なる旅館に於ては百尺位の井戸より盛んに出る瓦斯を利用して湯を

沸したる事ありたる由なり。

四、結論 此れを要するに當地方は埋立地なるを以て地下約百尺位の地層には貝類其他種々不純なる腐敗物あるやに思はれ、此等より「メタン」瓦斯多く發生する模様の如し、二百尺以上の深さには此等瓦斯の發生する模様なし、尙水質は沃度、鐵分等を含み多量の鹽分を含む、故に石井氏宅の井戸も此の「メタン」瓦斯が去る六日の地震にて多少地下に變動を起したるが遠因となり、地下の「メタン」瓦斯が一時に多量吹出すと共に黑色の不純水を涌出せしものなるべく其後掘抜鐵管の一部が閉されたか、或は地下水道に變化を來し、同氏宅の井戸水の湧出を閉したるものと思考される次第なり。尙其後に變化ある毎に報告せられ度く願ひ置き、其度に調査致す筈なり。

## 燒山溫泉噴出の異常

### 新潟縣高田測候所

昨年五月二十六日より噴出したる本所管内西頸城郡燒山(活火山)山頂の溫泉(攝氏九十度三分)は去る七月二十四日に至り湧出多量となり、同山中腹賽河原の上方、地獄谷附近迄溫泉

の流出を見受ける様になりたる由、同山麓上早川村助役小林初平氏より報告ありたり。

(昭和八年七月二十五日)